

【最優秀賞】

置かれた場所で咲く

澁谷 真呼（青森県 青森県立青森高等学校 2年生）

自分の力でどうしようもできないことに直面したら、どうしますか。

私は中学校一年生の時、特発性側弯症という原因不明の病気を患い、手術を受けるために入院していました。手術後は痛みのせいで一日中ベッドの上で天井だけを見て過ごすことがほとんどで、毎日が退屈でした。そのせいか、いつしか退屈な時間は病気なんかをしないで毎日友達と遊んだり運動をしたりできる友達を妬んで、どうして私ばかり、とネガティブなことを考える時間になってしまいました。

数日後、私は起き上がって自力で歩けるまでに回復し、リハビリを兼ねて病院内を散歩していました。そしてふらっと売店の書籍コーナーに立ち寄った時、この本のタイトルが目に入ってきたのです。

「置かれた場所で咲きなさい」

この言葉は、妬みや嫉み、羨望の気持ちでいっぱいだった私の

心を少し軽くしてくれたような気がしました。私はすぐに財布を取り戻って、この本を手にとり、レジに持って行きました。そして病室に戻って本を読み始めました。同じ厚さの小説なら三時間もあれば読み終わるくらいでしたが、私は言葉一つ一つをじっくり考えながら丸二日かけて読みました。ページをめくる度に出てくる言葉一つ一つから優しさ、時には強さを感じました。その中に私の心のもやもやをきれいに晴らしてくれた言葉がありました。

「現実が変わらないなら、悩みに対する心の持ちようを変えてみる」

この言葉は私にとってとても新鮮でした。家族も周りの人たちもみんな私を心配して、可哀想に、大変だね、と言っていました。また、お見舞に来てくれる人はみんな優しく接してくれました。そのせいか、私は、自分は可哀想なんだ、不幸なんだ、ということをつつしかあたりまえのように受け入れ、せっかくお見舞に来てくれた家族や親戚、友達に対してわがままな態度をとってしまっていました。

「心の持ちようを変える」というのは特別なことではありませんが、当時の私の心に一番浸透した言葉でした。それから私は、自分は可哀想で不幸、という考えを改め、まずは自分は幸せだ、と思つて過ごしてみるようになりました。すると、それまで見えなかったことや感じたことがなかったことが見えるようになり、私にはこんなにあくさん心配して来てくれる人がいるんだ、ということに気づき、うれしい気持ちと同時に、これまでわがままな態度をとっていた自分が恥ずかしくなりました。心の持ちようを変えてからは、以前より気持ちが楽になり、ポジティブに考えられるようになったことで笑うことも増えました。

その後退院し、学校に通い始めてからも友達を妬む気持ちは不思議と全くありませんでした。それよりも、休んでいる間ずっとノートをとってくれた友達や、特別授業をしてくれた先生に感謝の気持ちでいっぱいでした。

それから四年経ちましたが、この本は何度も本棚から取り出されました。友達と喧嘩をしたときや高校に入学する前で不安でいっぱいだったとき、テストで失敗して自信を失ったときなど、この本は開く時の気持ちに一番響く言葉で勇気づけてくれました。

そして、この本の言葉はまた私に力をくれました。私は現在高校二年生で、来年には受験生になります。私は自分が病気を経験したこともあり、憧れの医師になりたいと思い、大学に進学することを目指していました。しかし私の家は母子家庭で経済的な問題があり大学に進学するのは難しいと思っていました。悩んでいた時、また新鮮な言葉で心を軽くしてくれたのは、この本でした。

「どんなところに置かれても花を咲かせる心を持ち続けよう」

この本に出会う前の私だったら、きっと自分と周りの友達を比べて、自分は不幸だからしょうがない、と諦め、進学へのやる気を失ってしまっていたと思います。しかし、この言葉に出会ったことで、自分がどんな状況に置かれても、諦めずにその状況の下で頑張れる道を探せば良いんだ、と気づきました。私はどうしても医師になるという夢を諦めきれず、私が今置かれた場所で医師を目指そうと決めました。学費が免除される大学に進学することを指して、日々の学校の勉強を精一杯頑張っています。

書名・置かれた場所で咲きなさい

著者・渡辺 和子